



数学のノート作り……

みんなは本屋で問題集や参考書を選ぶとき、どんな点に注目して選ぶだろうか。内容が充実しているもの？ 解答が丁寧に書かれているもの？ いやいやほとんどの人はそうではないだろう。ちょっと立ち読みしたくらいで、内容や解答の丁寧さなどは比較できないだろう。選ぶ基準は、たぶん……『これならやれそうかな。』とか『これならわかりやすそうだな。』などと思いつくと思うます。

結局何を基準に選んでいますか？ そう、見た目で選んでいるのです。例えば、ページあたりの文字が少ない。読みやすい。カラーになっていたり読みやすい。項目がまとまっていてわかりやすい。読みやすい。と全て『読みやすい』に置き換えられると思います。

さて、みなさんのノートはどうでしょう。読みやすくなっていますか？ 今回は、このノートについて考えてみましょう。



みんなが使うノートの役割は、学習の記録です。後から見直して何を学習したのか、どこが重要でどこを覚えなくてはいけないのか、自分はどこが分からないのか、などを後から確認するためのものです。ノートを後から見直さないのであれば、それはノートの役割を果たしていません。もちろん数学の問題などは、解いて解き終わったらもう見直すことがないかもしれません。それでも、計算途中で前の式を見ながら解くので、記録が必要なのです。ここ重要です。直前の式を見て次の手

順を行う。一つずつきちんと積み上げることが必要です。また、きちんと計算の過程を書いているから、見直しや考え直しもできます。よくテストで見直しをすると言いますが、きちんと書いていない人は見直しが出来ていないのです。

ところで、字が雑な人、計算や解答が順序立てて書けない人、答えしか書かない人(たまに答えしか書かないこと)にこだわりを持っているかのような生徒もいます。自分のノートを見て、何を学習したのか分かりますか？ いやもつとと言うと自分のノートを見直していますか？ もつとノートを使おう。

逆にノートが美しすぎる人もいます。あまりに丁寧に美しく作っていると授業のペースに追いつけなくなり、学習の効率が悪くなってしまう。

結局何が言いたいのか？ 問題集や参考書と一緒に、ノートもパッと見て、何がどこに書かれている、何が大事なかが分らなければいけないのです。数学で言えば、どのような流れで考えたのか、思考過程が分らなければ使えないのです。だから、途中式をきちんと書く。計算をあちこちに書いているようでは、ミスも減らないし、学力も伸びないのですよ。

具体的には、①日付やページ、問題番号を書く。②問題と問題の間は一行空ける。③計算の過程や途中の説明を書く。④もちろん字を丁寧に書く。⑤もう少し付け加えると、式の(イコール)の場所をそろえる。などです。ノートに重きを置いていなかった人も、これからノートを大事に使って、ぜひ学習の効果を上げよう。(松永)

実験と観察の醍醐味

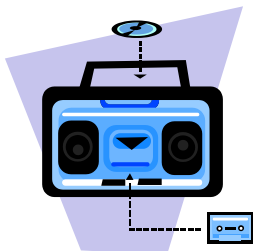
最近急激に気温が上がり、夏も近づいているこ

とが実感できる季節になりました。その反面、天気が不安定で雷が鳴ったり、竜巻注意報が出たり、雹(ひょう)が降ったりと様々な天候が短時間で起こることもありました。

ところでこのような天気の原因究明には理科の力が大きく関わっています。といっても机の上でパソコンを利用したりするだけではありません。様々な実験をして検証する作業が伴います。私は理科で行われる実験を調べることが多々あるのですが、このような大きな実験を入れなくても、理科の実験ってこんなにもたくさんあることが出来るんだということにあらためて感じました。

私自身がしたことのある実験も、振り返ってみると多々あります。一目見るだけで「すごい！」と思わせる実験。例えば静電気の実験。静電気をためることのできる球があるのですが、その球に両手をあてていると、全身の毛が逆立ってきます。そして両手を離して、別の人と指を差し合うと……「パチッ!」、「いてっ!」という音と声。そう、両者の指の間で雷が! 放電したのです。昔「ET」という映画があったのですが、まさにそのような状態でした。このような実験は見た瞬間にすごいと思える実験です。では次のような実験はどうでしょう

か。私くらいの年の方であれば中学校のときに作った方も多いいと思います。そう、「ラジオ製作」です。



設計図どおりに部品を組み立てて、慣れない「半田こて」を使って部品を接合し、ようやく出来上がったラジオ。無事音が聞こえれば「安心、聞こえなければ「今までの時間は何だったんだ!」と落ち込む人もいました。中学生のときではありませんが、私も一から計算機を組み立てて動作を確認したときは、大変うれしかったことを

覚えています。

このような実験は最後にどうなるかを先に考えて、その目的に向けて道具を作成するという手順をたどります。一目での感動ではありませんが、一生懸命目的に向かってこつこつと道具を作成し、完成したところで動作を確認する。動作したとき、それまで我慢強く作ってよかったという達成感と、自分自身が作ったんだという自信を持つことができる、先にあげた実験とはまた違う感動を得ることができる実験です。

この記事を書いている段階ではまだ実施していませんが、小学生の理科実験教室では、この後者の感動を得ることが出来る実験内容を考えておられます。ある目的のために道具を作って、その道具で観察するという普段なかなか体験できないことを準備しています。その実験が終わったときの生徒の表情が今から楽しみです。(岡本)

一期一会

●みなさんは、一期一会(いちいちえ)という言葉を知っていますか。現在は、人と人との出会いを大切にしようという意味で使われることが多い言葉ですが、もともとは、江戸幕府幕末の大老、井伊直弼の「そもそも茶の交会は一期一会といいて、たとえば幾たび同じ主客と交会するも、今日の会は再び帰らざることを思えば、実にわれ一世一度の会なり」という言葉から生まれたそうです。現在の言葉で言い換えると、「初めて会う人だけでなく、毎日会う人や度々会う人にも、今日が最期と思いい、その瞬間瞬間を大切にしよう」という意味になります。

●去年の6月頃、大学時代の友人(以下Yとします)からこんな内容の電話がありました。「俺さ、

来年パパになるんだ。生まれたら抱っこしに来てくれよ。」子供が生まれる喜びはもろろんのこと。この報告を一番に私に送ってきたという彼の台詞にはぐつとくるものがありました。さて、そんな彼とは大学で最初にできた友人でした。同じ数学科ということもあり、Yとは入学から卒業までほぼ毎日をともしした、まさに同じ釜の飯を食った仲でした。

●現在Yは、千葉市で高校の教員をしています。普段の他愛もない会話の中で、時折Yから授業研究や進路指導などに関する会話もあり、同じ教師として負けられないといつも思います。良き友でありながら、ライバルでもあるYの存在は私にとって、とても大きなものです。そしてこの出会いに感謝しなければいけないと感じます。しかしそれと同時に、大学時代はずっと一緒に過ごしていましたが、卒業後、それぞれの道を進む中で直接会う機会も極端に少なくなってしまうました。職業上、転勤などがあれば、顔を合わす機会はもっと減ってしまうでしょう。だからこそ、顔を合わす時には、これで会うのが最後になるかもしれない、そんな気持ちで一回一回の再会を大事にしなければならぬ、最近はその風に思うようになりました。



●さて、みなさんの生活の中でも、色々な人との出会いがあると思います。これから、高校、大学や社会生活の中で、人との交流はどんどん幅広くなっていきます。どこに自分にとって大きな出会いがあるかわからないので一つひとつの出会いを、大切にしてほしいと思います。また、それ以外にも普段接している、親や友人に対しても一期一会の気持ちを忘れずにいてください。私自身もみなさんとの出会い、そして塾に来る一日一日を大切に日々の生活を送りたいと思います。(服部)

事実と判断と感情と……

●高校に進学するとき、近所のオジさんやオバさんが母に説教した。「暮らしに困っているんだから、就職させろ。人様のお金で生きているのに何を考えているんだ。」大学を受験するときもそうだった。「高校まで行ったんだから十分だろ。早く就職させろ。甘えるんじゃない。」

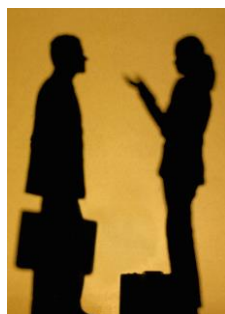
●思いかえせば、これと似たようなことが多かった。お年玉をもらって、母と弟と三人でプラモデルを買ったとき、「信じられない。何を考えているんだ。他人様のお金を何だと思っているんだ!」と母に怒鳴りつけたオヤジもいた。弟と私がお菓子を食べていると「お前達。ぜいたくをするんじゃないぞ!」と鬼のような形相で叱りつけたオバさんもいた。

●どの人も正義だった。「絶対に自分は正しい。お前たちはおかしい。」という確信にみちていた。母はペコペコしてただただ謝るだけであった。そう、小林家は生活保護をうけていたのだ。反論などできようもなく、仮にしたとしても、怒声は何倍にもなつて返ってきたはずだ。私が記憶しているだけでも、こんな場面が何十回もある。母は、おそらくその何倍も雑言を浴びていたにちがいない。

●こんな場面に合うと、その度に私は誓った。「ババア!おぼえているよ。必ずおとし前をつけてやる。」「ジジイ!絶対ギャパンといわせるからな!」家族も他人にも話さなかったし、話そうとも思わなかったが、私の心の中にはこんな思いがたまっていた。未だに、弟も母も私がこんなことを思っていたとは知らないはずだ。

●同級生や上級生にも絶対許せない奴がいた。殺意を抱いたこともあった。一番許せなかったのは、小林家の家族を冒瀆した奴だ。父は二歳まで一緒

に暮らしていたが、事情があつて鹿児島から大阪へと働きに出た。大阪にいる兄弟を頼つてのことだった。いつしか音信不通になり、物心ついてから父に会ったのは一回だけ。そして、私が小五の時に亡くなる。実質、祖父と母と弟との四大家族であった。私が小三の時、奴はこう言ったのだ。「おい、お前の父親が誰か知っているか?お前の父親はお前のじいさんだぞ。」一瞬何を言っているのかいぶかしんだが、その意味が分かると、猛烈な怒りがこみあげた。そう、ここで私は奴をなぐるべきだったのだ。石でも何でも使つて血だるまにしてもよかつたのだ。奴には正義などなかった。しかし、奴には三歳上のいとこと五歳年上のいとこがいる。彼らから仕返しされることを恐れて私は押し黙つたままだった。



●私を含めて一般に、事実とそれぞれの価値観に基づく判断と感情や無意識が混在して、人の心をちりちりに乱す。ある個人の一生だけを考へれば、大過なくおだやかな一生であることは可能だろうが、それを兄弟・親族まで広げれば、必ずや困難も悲しい出来事もある。学生時代だけをみてもクラスに四十人いたとすれば、全てが順調にいつている生徒・家庭など半分にも満たないはずだ。

●私がお預かりしている生徒達もそうだ。高三生は一年間で平均して十回ほど面接をするが、それぞれに悩みを抱えている。事実のみを取り上げて比較すれば、A君よりBさんが大変で、BさんよりCさんがもっと大変だと言えなくもないが、人は他人の悩みをつぶさに知ることはなく、また、自分の悩みも自分できちんと整理して、望ましい選択をしていくことは難しい。

●でも、私は生きていきたい。君も生きていきたい。できればよりよく生きていきたい。受験生も同じ。その時大事なことがいくつかあつて、そのひとつが自分に関わることを整理することだ。

●先述した私の例でいけば、どうしようもない事実ははつきりしている。母子家庭である。生活保護をうけている。他人様の金でいきているということ。周りの人はそう思っていること……。これは、受け入れるしかない。自分の願望もはつきりしている。進学したいと思つていること。お年玉をためてプラモデルを買いたかつたこと。私の感情も明確だ。様々な場面であつたことをつかれて悲しかったこと、怒りを覚えていたこと。

●しかし、上京する前の私はこうした整理ができなかつた。「弱音は吐かない、思つても言わない」ことを自分に言い聞かせてはいたが、心が乱されることも多かつた。「お前んち、テレビもないのかよ?」「服買つてもらえよ。」「自転車もつてないのお前だけだぞ。」「こんな些細なことにも動揺している自分だつた。」

●では何故私は少年時代を何とか進んでこれたのか?それは何人かの心から尊敬する親類達、小中高と出会つた素晴らしい教師達のおかげである。ともすれば、引いてしまう私に、前を見ること、自分の可能性を信じること、努力することを教えてくれた。

●私は、今、生徒の前に立ち、彼らが私にしてくれたことをしてやりたいと思う。そして、自分が苦手であつた「心の整理のお手伝い」にも力を貸せればと思う。さあ、面接だ。(小林)



▼▲継続希望の方へ▲▼

▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料で送り致します。
▶在籍していた教室までご連絡ください。